三重の木と漆喰でつくる自然素材の家る

木の香りが清々しい







流行にとらわれない
世代を越えて住み続く家

完成見学会

6／25(土)・26(日)

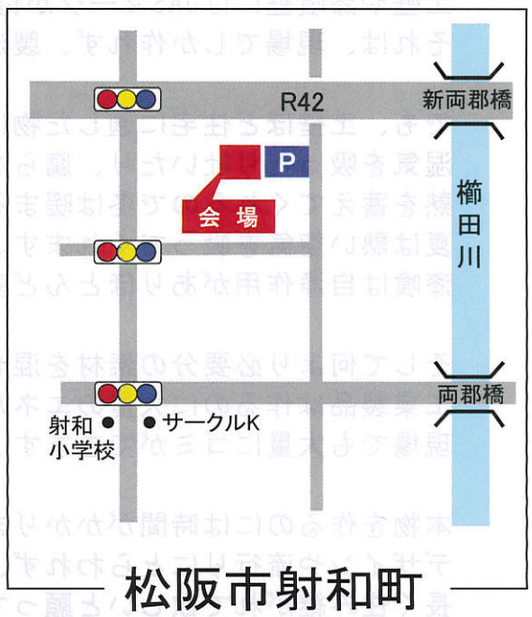
A.M.10:00～P.M.5:00



丸太梁への記述、土壁塗り
共にかかわり 思いを宿らせる



免震構造	手刻みによる伝統工法で木組みにより揺れを吸収してしなる強さ
木材は三重の木	柱や梁はもちろん内装で使う床、壁、天井の板にも杉や桧の三重の木認証材
漆喰(しっくい)壁	左官屋さんがツノマタ(海藻)、すさ、石灰を練り上げた100%天然素材の漆喰
家具	杉や桧で造る食器棚やテーブル、下駄箱、扉を開けると木の香りが漂う



松阪市射和町

有限会社 青木工務店

三重の木

〒515-1202 松阪市茅原町572

Tel.0598-34-0835
Fax.0598-34-0837

aoki0835@ma.mctv.ne.jp

協力会社
MADO ショップ松阪店
㈱鳥山商事
㈱ミツイバウマテリアル
YKKap三重支店
タカラスタンダード三重支店

千年つづく伝統の技か
計算で示す現代の基準法か



今や、木造建築に携わる職人は絶滅機種と言えるかもしれません。
現在の建築のシステムは工期短縮、コスト削減を優先し、
職人を必要としない建て方になって来ていますので
日本の伝統的な技が驚くべきスピードで消え去ろうとしています。
瓦の土葺き、土壁を塗る左官、木の建具、もちろん手道具を使う大工も。

国の定める耐震や省エネ基準は、JASマークの付いた工業製品を使う事が前提で
金物や耐震パネルの数で計算上は安全と言うことになり、
木目調や塗り壁調などの模造品を使うこととなり、呼吸をしない家になり、
気密性を高めて省エネに努めなさいと言いながら24時間、換気扇を回せと言う。
そして、ある時に想定外と言われる。

土壁や漆喰壁にはJASマークが付きません。
それは、現場でしか作れず、製法もほとんどが左官屋さんの勘によるものですから。

でも、土壁ほど住宅に適した物はないと思っています。
湿気を吸ったり吐いたり、腐らないし、燃えないし、音もさえぎるし、
熱を蓄えてくれるので冬は暖まるのは時間がかかりますが朝まで少しずつ放出し、
夏は熱い空気を吸ってくれます。
漆喰は自浄作用がありほとんど変色しません。

そして何より必要分の素材を混ぜて練って作るのでゴミがほとんど出ません。
工業製品は作るのに大量のエネルギーや水を使い、包装や輸送にコストをかけ、
現場でも大量にゴミができます。ただ、乾燥に時間がかかります。

本物を作るのには時間がかかります。本物を作る技術を習得するのも時間がかかります。
デザインや流行りにとらわれず、地元の木でこの土地に合った家こそが文化であり、
長く住み継がれて欲しいと願っています。

20年以上途絶えると技術が継承されない恐れがあることを、
伊勢神宮は示しています。

千年つづく伝統の技か、現代の建築基準法か、答えを出すのは自然かもしれません。